

2024年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園おおつか

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに
自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

自らの内なる声を聴き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造するこども

シチズンシップ保育5つの基本



1,活動のテーマ

<テーマ(こどもたちの興味・関心を深める)>

音


<テーマの設定理由(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)>

こども達が散歩に行くために道を歩いていると色々な音にすぐに気付くことができたり、楽器の音にも興味を持っていることから、この音が何の音なのかや音の響きなどについて深めるため

2,活動スケジュール

2024年12月～2025年3月

【実践記録】

日付	2024/12/6(金)
「問い」	ハンドベルとは何か
環境のデザイン	ハンドベル
探究活動	<ul style="list-style-type: none">・ 初めてのハンドベルだったため、とても興味を示していた。見えない所から音が鳴り「なんだろう」という表情はしていたが、音に対しては驚きはなかった。・ 鈴の音に対して「りすの音」と発する児。・ 鈴（ベル）を見せた所「帽子」との発する児。・ 鈴とハンドベルの音の違いに対して「さっきと同じだけど名前が違うんだよ」「違うんじゃない」という発言がある。・ 保育者とのやりとりはあったが、こども同士の会話につながるようなことはなかった。
活動の様子	



振り返り

：ほとんどのこどもが「なんだろう」という興味を持ち集中して参加できていた。

- ・ 思ったことを自由に発する姿があった。
- ・ ブームになるまでのことができていない（自由に触らせることができなかったため）
- ・ 保育者が一方的すぎた部分があった。（触らせないために）
- ・ 自由に触らせていたらもっと違う姿が見れたと思う。
- ・ 「おんなじだけどちがう」「ちがうけどおんなじ」という発見をする見がいた。
- ・ こどもの発言に対して保育者が引き出せていなかったため、次回はこどもの発言をもっと引き出せるよう関わっていく。


日付	2025/1/10
「問い」	・ ハンドベルってどんな音？
環境のデザイン	・ ハンドベル
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回自由に触れなかったが、今回自由に触ることができ素直、に鳴らせてることが楽しそうだった。 ・ ハンドベルの見た目（色によって音が違うため）で違いを判断していてまだ音の違いまでは違いに気付いていない。 ・ 色が好きで選んでいた。参加する姿は興味が全くなく車の話をしている児がいた。 ・ 普段の生活の音に対する興味と、出したものに対する興味のあり方が全然違っていた。（出したものには形や色に興味を示していた） ・ 前回よりもこども達同士の顔を見合わせたり、ハンドベルを渡す姿が見られた。 ・ 音が沢山鳴っている時に「うるさい」と言う児がいた。 ・ みんな一斉に鳴らしていたが急に音がなくなる瞬間があり、一人が鳴らしだすとみんな鳴らしだしていた。 ・ 興味があまりない児と興味があるがまだこども同士で会話を盛りに上げる姿はなかった。 ・ 児によっては話には乗るがわかって話している感じはない。 ・ 何かを話している姿が見られる二人がいたが話している内容が聞こえなかった。 ・ 初めから車の話をしている児がいたが、ハンドベルで保育者がピタゴラススイッチを奏でた時はすぐに「ピタゴラススイッチ」と話にはいつてきていた。 ・ 弾いている風でも楽しそうだった。 ・ 「ドレミファ」だけで出来た感があつた。

活動の様子



振り返り

- ・ 音の変化、音がきれいとかよりも、音が出ることは楽しいよう。「うるさい」と言われた児がおり、その児はどうやったら小さくできるかを試していた。
- ・ 音に対して興味を持っているはずなのに、こどもからの広がりを感じられないので楽器の音ではなく、生活音のほうが興味があるのかもしれない。
- ・ もう一回楽器を色々な種類で用意してみて音あてなどをやってみて、広がらなければ生活音でやってみようか。
- ・ 一人だけピタゴラスイッチの音を奏でた時にすぐに気がついていた。ピンポンパンポンは誰も気付かなかった。

日付	2025/2/14
「問い」	どの音が好き？
環境のデザイン	鈴 ハンドベル(ドレミファソラシド用意) トライアングル 自由に楽器を取りやすいように置く。
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音というより新しい物・事の発見は早かった。 ・ 沢山楽器を出したが、知っている楽器もあり反応があった。初めての楽器(トライアングルなど)に対して、月齢の高い児は叩き方に違いがあった。だが、音への発見よりも叩き方を変えると何か変わるのかという感じだった。低月齢の児はただ叩きたいという反応だった。 ・ テーマがあってやらなきゃという思いがあったが、させるのであれば保育者主導でやったらまた違うのかと思い進めてみた。 ・ 参加する気持ちがない児が暇そうにしている姿が気になった。 ・ させられるで終わると面白くないが、こうしたい・こうしてみたいが出てきたら興味を持っていた。 ・ オーシャンドラムにハマっている児がいた。 ・ 二人が同じ楽器を選んだ時に、片方の児がもう片方の児に対して「あとでね」と言っていた。 ・ トライアングルの音を聞いて「トライアングル」と答えることができた時に対し、他の児が「音わかってすごいね」と言っていた。
活動の様子	



振り返り

- ・新しい事の発見は早かった。知らないことに関してやってみようとする姿を感じた。
- ・やってみたい楽器への執着をととても感じる児がいた。考えて楽器を鳴らしていた。
- ・保育者が楽器を選んで演奏していた姿を見て、その後同じ様に1種類だけでなく2種類3種類の楽器を持ってやる姿が出ていた。
- ・やってみよう・やってみたい・どうやろうが回数を重ねる事に見られた。回数を繰り返すことで良い諦めができていた。
- ・この曲で演奏をしたいというのを自分達で発言できていた。
- ・今回音をテーマにしてやり始めたが、音については興味の集中がっていなかった。が、最初は恐る恐るやっていたハンドベルも上手に鳴らせるようになったり、こども達のいろんなやってみよう・やってみたいという姿を見ることができた。